

小規模な止水域で遮光型カゴ網を用いたブルーギルの駆除事例

片岡友美・若澤英明・佐藤方博（認定 NPO 法人生態工房）

光が丘公園バードサンクチュアリ池(0.7ha、東京都練馬区)は1984年に同公園の自然保護区域内に造成された人工池で、他の河川とつながっていない止水域である。また、この自然保護区域全体(2.0ha)が外周を高いフェンスで囲われているため、当池や林内に一般の人が立ち入ることはできない状況である。にもかかわらず、当池では1996年からブルーギルの繁殖が確認されたため、1998年から巻き網や定置網を使った本種の駆除を開始した。そして、2008年からはより効果的な捕獲方法として遮光型カゴ網を導入した。2008年は10基のみの導入だったが、2009年は25基、2010年は51基、2011年は90基、2012年は96基になり、年々ワナ密度を高めていった。そこで、本発表では2009年から2012年までの4年間において、当池のブルーギルに対する遮光型カゴ網の捕獲効率を検証し、現段階の駆除成果を報告する。

捕獲期間は2009年から2012年の各年5月下旬～10月末までを対象とした。捕獲範囲はバードサンクチュアリ池全域で、捕獲回ごとに水域内の任意の場所にカゴ網を設置した。カゴ網は設置後1～8日を経て再度見回り、捕獲された生きものを全て回収した。ブルーギルは捕獲回ごとに稚魚を除いた個体数および各個体の標準体長を記録し、その後は全て駆除(日干し&埋葬)した。

上記対象期間において、捕獲を実施した回数は2009年が47回、2010年が44回、2011年が52回、2012年が59回であった。各年における実施1回あたりの平均捕獲数/設置日数/ワナ数(±標準偏差)は、2009年:0.58(±0.78)、2010年:0.26(±0.26)、2011年:0.24(±0.33)、2012年:0.14(±0.19)で、2009年から2012年にかけて徐々に捕獲数が減少していることがわかった。しかし、遮光型カゴ網で捕獲されたブルーギルの平均体長(±標準偏差)は、2009年が89.0 mm(±21.8)であったのに対し、2012年は78.9 mm(±15.1)で、2009年の体長とあまり変わっていなかった。

この結果、当池では遮光型カゴ網によってブルーギルの個体数は減少傾向にあることが分かった。しかし、現状では大型個体を選択的に減らしているという可能性は低いと考えられた。よって、今後の防除計画では大型個体を積極的に捕獲するため、カゴ網の形状や設置条件の改善、また、新たな捕獲方法の導入などを検討する必要があることがわかった。